

令和 8 年度第 1 回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

開催日時	令和 8 年 6 月 30 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
開催場所	大船渡市役所 地階大会議室
出席者	委員 13 名 柴山明寛会長、佐藤敬生委員、小岩類委員、佐藤高廣委員、佐藤健委員、石橋英委員、伊藤喜久雄委員、新沼晃委員、山岸健悦郎委員、安居清隆委員、佐藤水産課長補佐（富澤武弥委員代理）、遠藤建設課長補佐（長岩智徳委員代理）、花崎誠委員 事務局 総務部危機防災対策課 （新沼部長、伊藤課長、佐藤課長補佐、村上主事、新沼主事） 傍聴者 1 名
次第	1 開会 2 委員等紹介 3 あいさつ 4 協議 令和 8 年度事業計画（案）について 5 その他 6 閉会

1 開会

2 委員等紹介

3 会長あいさつ（柴山会長）

先週 25 日に岩手県沖でマグニチュード 6.9 の地震が発生し、その翌日には山梨直下型地震が発生したほか、台風も重なっており、複合型災害に気を付ける必要がある。

特に、青森・岩手県沖において、過去発生した地震の周期と比較すると、昨年から今日までで、三陸はるか沖地震の震源地で地震が発生しておらず、今後津波を有する地震が発生する可能性があり、危機感が高い状況であることを念頭に置いていただきたい。

防災学習について、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館では、来訪者が山なりを越え減少傾向にある。県内小中高生の来訪は一定数を維持しているが、県外からの来訪が減少しており、県全体として防災学習の来訪者が今後減少する可能性がある。

防災学習ネットワークを通じて、県外からの誘致や、大船渡市民への意識付け、津波災害、風水害、林野火災から自分の身を守るための知識普及と意識啓発ができるよう、本日の運営協議会では活発な議論をお願いしたい。

4 協議

- ・令和８年度事業計画（案）について
事務局から、資料１について説明した。

<意見・質疑応答>

○ 新沼委員

防災イベントを実施することは意識啓発の面で重要であると考える。

資料Ｐ１ 消防署主催「おおふなと防災フェア」について、昨年度は来場者が 745 人まで増え、これ以上増加するとキャパシティ超過になる。今後も継続するため、内容を見直しながら実施したい。

→ 柴山会長

開催時期的に暑さの影響はないか。

→ 新沼委員

救急の日に合わせて実施している。民間の方が冷たい飲食等を提供してくださっており、来場者から好評である。

○ 伊藤委員

資料Ｐ１ 防災学習館の利用について、市内小中学校が防災学習館を利用しない理由について、移動手段が課題となっているのではないか。

→ 事務局

学校訪問の実施時期が影響していると考える。未訪問の学校については今年度提案していく予定である。また、移動手段として市バスの利用が可能である。

○ 佐藤高廣委員

資料Ｐ１ 消防署主催「おおふなと防災フェア」について、どのような内容か。地域から、ドローン操作や体験学習など体験型イベント開催の要望もある。

→ 新沼委員

楽しみながら理解と関心を深めてもらうことを目的としている。今年度は地震体験車やはしご車などの体験を実施予定。

→ 事務局

市では要望に応じ防災学習の提供が可能のため、お声がけいただきたい。

→ 柴山会長

市直営のみならず、民間事業者や既存イベント等に関する情報提供も行えるようにすると良い。

○ 石橋委員

資料Ｐ１ パンフレットの配架について、県外での設置が少ないように見える。

→ 事務局

指摘のとおり市内・県内への配架が主である現状。今後は配架場所を増やしていきたい。

○ 小岩委員

資料Ｐ１ 防災学習館の利用について、早めに情報提供いただき次年度の活動に取り入れたい。どの学校も、費用が関与しないのであれば、学外から指導いただく

機会を多く確保したいという意向だと思う。

→ 事務局

各学校に毎年訪問することが必要であると改めて感じた。次年度計画へ盛り込むことについて、ぜひ協力いただきたい。

→ 柴山会長

防災学習館の紹介をする際、他市の震災伝承施設とは時間軸や学習内容が異なることを学校にしっかり伝える必要がある。例えば陸前高田市の津波伝承館は震災直後の内容が中心であり、防災学習館は避難生活などの視点である。さらに陸前高田市の仮設住宅体験館も含め、地域間で周遊ができるため、学年ごとに訪問先を設定するなど、うまく活用すると良い。

○ 佐藤水産課長補佐

釜石では首都圏からの企業研修の受入れを積極的に行っているとのこと。当市でも企業研修のメニューとして防災学習をPRできないか。

また、綾里にプレオープンしたビジターセンターにて林野火災と震災関連の展示をしているため、連携してはいかがか。

→ 事務局

現状、当市ではまだツアーとして提供できるプログラムができていない状況。今後提供可能なプログラムを考える必要がある。

貴課にも協力いただき、同事業者に話を聞きたい。

→ 柴山会長

同事業者に、防災学習ネットワークの構成員として参画してもらうことが望ましい。市だけでなく、民間企業も含めた大船渡市全体として進める必要がある。

企業研修についてもレベルが様々あるため、「あの日」との連携なども含め、どの機関からもPRできるいくつかの手段を作っておくと良い。

○ 石橋委員

資料P3 出前講座について、実施が限られている印象である。講座の様子をショート動画化し、YouTube等で発信するなどPRを強化してはどうか。

→ 事務局

動画作成に長ける部署等と連携して検討したい。

→ 柴山会長

宮城県高校生防災ムービーアワードのように、高校生から集めることも1つ。アーカイブスの運用を見直して動画作成等の取組に予算を充てるなど、PRの方法を検討した方が良いと思う。

併せて、子育て世代向けの防災講座もぜひ実施してほしい。

→ 事務局

令和6年度に、子育てシップから依頼を受け、子育て世代向けの講座をサンリアにて実施し、翌年には子育て世代向けパンフレットを作成した。子育て世代向けの施策もターゲットの1つとして考えていきたい。

→ 柴山会長

毎年資料に記載すると良い。

○ 佐藤敬生委員

資料 P 1 児童・生徒向け体験プログラムや資料 P 2「あの日」を活用した取組について、商談で提案できる内容として整理できるか。また提供開始時期はいつ頃になるか。

→ 事務局

パーティーション組立や簡易トイレ疑似体験などは既に実施可能で、クイズやゲーム等は未開発である。市職員が対応できない場合は、観光物産協会でも提供できるよう機材やノウハウを共有することもできるので、打合せをしながら進めたい。

○ 佐藤健委員

資料 P 1 パンフレットの配下について、イベント等でパンフレットを配布できる機会があるため、提供いただきたい。

資料 P 3 大船渡津波伝承会の資料について、同団体で実施していた紙芝居の様子をショート動画にして発信することも有効ではないか。

子どもや子育て世代への防災教育について、災害時、浸水区域にある公園から避難する場所のゾーニングが共有できているのか。情報提供の仕方も検討したほうが良いと思う。

→ 事務局

紙芝居の SNS 発信は同事業者から承諾を得られれば実施できると思う。

子育て世代への情報発信は、広報紙で実施してきたが、今後は SNS 等も活用し周知していきたい。

○ 山岸委員

情報発信が重要である。SNS など広報についてデジタル戦略課と連携し戦略的に進めてほしい。ふるさと納税の PR の機会に併せてパンフレットを配布するなど、様々なターゲットに向けた発信が考えられる。

→ 事務局

多様な手段で情報発信することが必要と考える。今後も相談しながら進めたい。

→ 柴山会長

SNS での発信時は、ぜひ方言を強調してほしい。ショート動画では字幕の使用が基本であるため、地元の方に話してもらうなど特徴的な PR をすると良い。

○ 安居委員

観光部署の機動力を生かし、県外での PR を強化していきたい。

資料 P 3 防災士養成研修講座について、防災士は、将来的に各地域に何人配置する想定か。

→ 事務局

最低でも各地域に 1 人は配置したいと考えている。予算の関係もある。

→ 柴山会長

防災士は 1 地域 2 人程度が望ましい。自主防災組織や消防団のあり方も含め検討が必要である。

○ 花崎委員

資料 P 1 防災学習館の利用促進について、市内小中学校への情報発信を教育委員会も連携して効果的に進めていきたい。

→ 柴山会長

教育委員会教員向けの防災教育の機会はあるか。

→ 事務局

毎年新任研修として防災学習館を活用した研修を実施している。

→ 柴山会長

新任以外の教員に対する継続的な防災教育の機会も必要である。

○ 遠藤建設課長補佐

防災学習は体験型が有効である。林野火災の避難所設営時に学生ボランティアが手際よくパーテーションを設置しており、体験プログラムの重要性を感じた。

→ 柴山会長

現在は消火器訓練が主流であるが、消防の方の指導の下、バケツリレーなど実践的な訓練の実施も有効である。学校行事等と連携して実施すると良いと思う。

○ 石橋委員

S N S の発信頻度（月 2 ～ 4 回）は少ないのではないかと。ネタがない場合、クイズや防災学習館の方が発信するなど、頻度を高めることが望ましい。

→ 事務局

前回の運営協議会での意見を踏まえ、過年度よりも高頻度の目標を設定したところ。発信については魚市場とも相談しながら内容を充実させていきたい。

→ 柴山会長

防災クイズは容易に作成できておすすめである。市だけでなく関係者と連携して発信することが望ましい。

○ 佐藤高廣委員

防災学習館の利用者は旅行の一環で訪れるケースが多く、滞在時間が短い傾向にある。防災学習館の利用と併せて、気軽に立ち寄れる林野火災の現場について問い合わせがあるが、案内できる適地はあるか。

→ 事務局

綾里小路の県道や合足漁港付近などが候補として考えられる。

→ 柴山会長

綾里から道の駅までのルート案内であれば迷わずに運転でき有効かと思う。

→ 山岸委員

合足から小路への道路上から燃え跡が見える。駐車場はないため、道路脇に停車いただく。他には、例えば田浜側からも木の根元が黒く焦げた様子が見えるが、そこまでの要望はないと思う。

→ 柴山会長

現在作成しているパネルにも、同内容に係る案内図等を組み入れたい。

また、訪問者が燃えた木を見る際、林野火災による影響か原風景か違いを理解できるように、比較写真等もパネルに組み入れて作成する。

○ 佐藤健委員

S N S について、事務局で毎日の発信は負担が大きいため、ハッシュタグキャンペーン等市民参加の活用も有効ではないか。また、先のバケツリレーについて、着衣水泳と合わせた実施であれば学校の負担も少なく防災訓練ができると考える。

→ 柴山会長

素晴らしい提案。防災イベントにおいて、ハッシュタグキャンペーンのパネルを作成し参加を促すと良いと思う。ハッシュタグはキャッチーなものを決める必要がある。

○ 柴山会長

全体として市の負担が増えている状況が見られるため、各団体と連携し負担の分散を図る必要がある。仕組みを構築することで、効率的な運用につなげていくことが重要である。流れができれば、各団体も負担に感じず運用が可能と考える。

4 その他
特になし

5 閉会